



# 畑作・野菜・花き生産情報 第7号

令和2年10月20日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎大豆やながいもは、適期収穫で良品生産に努めましょう！
- ◎小麦は、ほ場の排水対策と雪腐病防除を徹底しましょう！
- ◎秋ギクは、適正な温度管理と病害虫の早期発見・早期防除に努めましょう！

## 畑作物

### 1 大豆

#### (1) 生育状況

生育はおおむね成熟期に達しており、早いところでは収穫適期に達している。

表-1 大豆の生育状況

場 所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)
農林総合 研究所 黒石市	本年 (平年比)	5/26 (1日遅)	6/3 (2日早)	7/25 (2日早)	10/10 (1日早)
	平年	5/25	6/5	7/27	10/11
	前年	—	—	—	—
野菜研究所 六戸町	本年 (平年比)	5/15 (±0日)	5/28 (3日遅)	7/27 (1日遅)	10/13 (±0日)
	平年	5/15	5/25	7/26	10/13
	前年	5/15	5/21	7/25	10/16
藤崎町 西中野目	本年 (平年比)	5/30 (4日早)	6/7 (6日早)	7/25 (5日早)	10/12 (3日早)
	平年	6/3	6/13	7/30	10/15
	前年	5/27	6/9	7/26	10/19
五所川原市 金木町	本年 (平年比)	6/6 (±0日)	6/13 (1日早)	8/3 (3日遅)	10/13 (1日遅)
	平年	6/6	6/14	7/31	10/12
	前年	6/2	6/11	8/1	10/17
十和田市 切田	本年 (平年比)	6/6 (±0日)	6/11 (4日早)	8/3 (1日早)	10/19 (2日遅)
	平年	6/6	6/15	8/4	10/17
	前年	6/1	6/8	7/28	10/10

(注) ①品種は「おおすず」

②平年値は、農林総合研究所が過去14か年(令和元年除く)、野菜研究所が過去13か年、藤崎町が過去9か年、五所川原市が過去10か年、十和田市が過去19か年の平均値。

## (2) 今後の留意点

### ア 収穫適期の目安

コンバインによる収穫適期は、茎水分50%以下（主茎の中央部を爪でこすっても、表皮が乾いてむけない状態になった頃）、子実水分20%以下となった時期である。

### イ 収穫

(ア) 収穫が遅れるとしわ粒や紫斑病などの被害粒が増加し、収量や品質が低下するので、収穫適期に達したほ場では計画的に刈取りを行う。

(イ) ほ場内の雑草や青立ち株は汚粒の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。

(ウ) 収穫は、朝露等による湿りがない時間帯（一般的には午前10時～午後4時）に実施する。

(エ) コンバイン収穫では、土のかみ込みによる汚粒の発生を防ぐため、無理に地際部まで刈取らない。

### ウ 乾燥調製

(ア) 乾燥は、検査規格の子実水分15%以下に仕上げる。

(イ) 乾燥を始める初期子実水分はできるかぎり、20%以下にする。また、乾燥速度は0.3%/時以下のゆっくりとした速度で乾燥し、急激な乾燥は避ける。高水分の場合、直ちに熱風を当てるのではなく、初めは通風乾燥のみを行い、20%以下になってから温度をかける。

## 2 小麦

### (1) 生育状況

は種後の生育は、一部で湿害の影響があるものの、おおむね良好である。

### (2) 今後の留意点

ア 湿害や雪腐病を防止するため、明きょの設置など排水対策を徹底する。

イ 耐倒伏性の向上や凍霜害の回避のため、10月下旬から11月中旬にローラー等で麦踏みを行う。ただし、粘土質土壌や転作田など排水の悪いほ場では、生育が阻害されるので行わない。

ウ 雪腐病の防除のため、11月中旬から下旬に薬剤散布を行う。なお、散布後に一度積もった雪が溶けても再散布の必要はない。

エ 越冬後の追肥は基本的に2回行う。1回目は消雪後から幼穂形成期に、2回目は止葉抽出期から出穂期に実施する。1回あたりの追肥量は窒素成分で2kg/10aを基準とする。

表-2 雪腐病の種類と主な薬剤

雪腐病の種類	薬剤名
紅色雪腐病	ベフラン液剤25
紅色雪腐病、 雪腐小粒菌核病	オキシンドー水和剤80、キノンドー水和剤80、キノンドー水和剤40、 キンセット水和剤80、ベフキノン水和剤、フロンサイド水和剤
雪腐小粒菌核病	バシタック水和剤75、リゾレックス水和剤、リゾレックス粉剤
褐色雪腐病	ランマンフロアブル

# 野菜

## 1 ながいも

### (1) 生育状況

ア 9月中旬以降の日照不足の影響によりいもの肥大が緩慢で、いも径は平年をやや下回り、いも重は平年並～平年を下回っている。

イ 9月末頃から茎葉の黄化が見られる。

表－3 ながいもの生育状況 (10月10日現在)

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	茎葉重 (g)	つるのネ ット頂到 達日 (月日)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	5/25 (1日早)	6/25 (4日早)	664.0 (152%)	7/23 (3日遅)	75.1 (105%)	1,431 (104%)	67.3 (96%)
	平年	5/26	6/29	436.3	7/20	71.6	1,371	69.9
	前年	5/24	6/24	500.5	7/22	73.9	1,543	70.8
五戸町 上市川	本年 (平年比)	5/ 5 (8日早)	6/11 (4日早)	— (—)	7/10 (2日遅)	88.0 (102%)	1,305 (99%)	60.1 (96%)
	平年	5/13	6/15	—	7/ 8	86.6	1,314	62.9
	前年	5/ 6	6/ 9	—	7/ 8	99.7	1,631	65.5
東北町 野田頭	本年 (平年比)	5/14 (±0日)	6/ 7 (1日早)	— (—)	7/10 (2日早)	72.3 (104%)	876 (87%)	55.5 (97%)
	平年	5/14	6/ 8	—	7/12	69.8	1,007	57.1
	前年	5/ 8	5/30	—	7/22	71.1	1,053	48.2

(注) ①平年：野菜研は平成19～令和元年の13か年の平均値

五戸町は平成14～令和元年の18か年の平均値

東北町は平成20～令和元年の12か年の平均値

②種子：野菜研は園試系6の2年子(90～110g)ガンク切除

五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除

東北町は庄司系の1年子(80～120g)頂芽付

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)

五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)

東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)

④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値

⑤調査日：本年は10月9日

### (2) 今後の留意点

#### ア 収穫

(ア) 収穫は、茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから開始する。

(イ) 雨天など過湿なほ場条件での掘取作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。

(ウ) 掘取りに当たっては、表皮を傷つけたり、直射日光や風に当たることがないように注意する。

## イ 茎葉・ネットの適正処理

茎葉の絡んだ「ながいもネット」は、堆肥化等により減量し、ネットと茎葉を分別した上で適正に処理する。

## 2 秋冬だいこん

### (1) 生育状況

は種期が平年より3日早く、出芽以降の生育は順調で、すでに収穫期に達している。

表-4 秋冬だいこんの生育状況 (10月10日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)	収穫期 (月日)	は種から収穫 までの日数 (日)
東北町 滝沢平	本年 (平比)	8/ 5 (3日早)	42.7 (98%)	25.4 (119%)	1,012 (107%)	10/ 9 (2日早)	65 (1日遅)
	平年	8/ 8	43.4	21.4	943	10/11	64
	前年	8/ 6	49.6	24.6	1,033	10/ 3	58

(注) ①平年：平成13年～令和元年の19か年の平均値

②品種：夏の翼

③栽植様式：畦幅55cm×株間23cm、1条植え(7,905株/10a)

④調査日：本年は10月9日、前年は10月3日

### (2) 今後の留意点

収穫は、ほ場毎に試し掘りで肥大状況を確認してから行う。

## 3 冬のハウス栽培の留意点

(1) 降雪、強風等に備えて、ビニールやマイカ線などの点検・補修を行う。

(2) 二重被覆などにより保温効率を高めるとともに、暖房機の着火装置などの保守点検を行う。

(3) ハウスからの放熱を防ぐため、被覆資材の破れを修復するほか、つなぎ目の隙間をふさぐ。

(4) 古い被覆フィルムは採光性が劣ることがあるので、透過性の高いものに替え、汚れが付着したフィルムは洗浄する。

(5) ハウス内は、循環ファン等を設置して温度ムラを減らすとともに、時間帯に応じた細やかな温度管理ができる変温装置を活用したり、暖房機の温度を生育適温の下限に設定するなど適正な温度管理に努める。

# 花き

## 1 秋ギク

### (1) 生育状況

生育は順調である。

病害虫は、一部の地域で白さび病、アザミウマ類が散見される。

表－5 生育調査（10月10日現在）

場 所	年 次	品 種	定植月日 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
八 戸 市	本 年	精の一世	7/15	109.7	66.5	1本仕立て
	前 年	精の一世	7/18	94.6	57.1	1本仕立て
五所川原市	本 年	神 馬	7/2	114.3	71.9	2本仕立て
	平年比		(3日早)	(96.9%)	(111.1%)	—
	平 年	神 馬	7/5	117.9	64.7	2本仕立て
	前 年	神 馬	7/4	124.8	69.3	2本仕立て

(注) ①八戸市の平年値：昨年から品種の変更によりなし

②五所川原市の平年値：平成22～令和元年の平均値

③本年の調査日は10月9日

### (2) 今後の作業

#### ア 病害虫防除

白さび病や灰色かび病の予防防除を定期的に行うほか、アザミウマ類等害虫の早期発見・早期防除に努める。

#### イ 収穫

収穫適期は3分咲きを目安とするが、出荷先により異なるため事前に切り前を確認する。

## 2 キクの親株育成

### (1) 今後の作業

#### ア 親株の整理

親株には、生育が劣る株、病害の感染が疑われる株、害虫の被害がある株を抜き取り、健全なものを用いる。

#### イ 親株の伏せ込み

伏せ込みは、10月下旬までに日当たりと排水の良いハウスで行う。11月にずれ込んだ場合は、活着を促すためトンネル等を設置する。

#### ウ 親株の伏せ込み後の管理

伏せ込み直後は、十分にかん水して活着を促し、活着後は5℃以下の低温に十分に遭遇させる。

白さび病や灰色かび病の予防防除を定期的に行うほか、アザミウマ類等害虫の早期発見・早期防除に努める。

本年度の畑作・野菜・花き生産情報は今回で終了します。  
来年度は4月から発行する予定です。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう！

◎秋の農作業安全運動展開中（8月15日～10月31日）

- 1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
- 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 3 自分を過信せず、無理のない作業を行いましょう。
- 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～  
土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります。  
緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！  
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 使用する際は、必ず最新の登録内容を確認しましょう。  
【農薬情報】([https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))  
【農薬登録情報提供システム】  
詳細検索 → (<https://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)  
作物名での検索 → (<https://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)
- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壌くん煙剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので、注意しましょう。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！

農業保険には、農作物共済、園芸施設共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

- 1 農作物共済、畑作物共済  
「農作物共済」は水稻・麦を対象として、「畑作物共済」は大豆・ホップを対象として、災害による収穫量の減少に対する損害を補償します。
- 2 園芸施設共済  
「園芸施設共済」はガラス室・プラスチックハウスと附帯施設、施設内農作物を対象として、災害による施設被害と農作物の損害を補償します。  
なお、「園芸施設共済」は生産者部会等の集団で加入すると掛金が割引になる等、各種割引メニューがあります。  
台風前の6月と降雪前の11月は『災害に強い施設園芸づくり月間』です。  
昨年度に比べ、補償金額の引上げや小損害に対する補償が手厚くなりますので、災害に備え「園芸施設共済」に加入しましょう。
- 3 農業経営収入保険  
「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。（青色申告の実施が要件）  
令和3年の加入に係る申込期限は、継続加入の場合は11月30日（月）、新規加入の場合は12月28日（月）です。必要書類等詳しいことは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

---

連絡先 農産園芸課  
稲作・畑作振興グループ  
県庁内線 5073  
直通 017-734-9480

野菜・花き振興グループ  
県庁内線 5076  
直通 017-734-9481

---